

倉敷中央病院を表彰



松田理事長（右）から表彰状を受け取る小笠原院長（左）と相田副理事長

松岡良明賞 がん診療連携拠点

がん撲滅に功績のあった個人、団体をたたえる第20回「松岡良明賞」の贈呈式が7日、岡山市北区柳町の山陽新聞社であり、倉敷中央病院（倉敷市美和、小笠原敬三院長）が表彰された。団体として病院が受賞したのは初めて。

がん関連の専門・認定看護師を配置するほか、患者や家族を支える相談支援センターを設置。隣接の総合

倉敷中央病院は、地域のがん治療の中心的役割を担う「がん診療連携拠点病院」の一つ。年間の入院がん患

贈呈式には、小笠原院長と、運営母体である大原記念倉敷中央医療機構の相田俊夫副理事長が出席。小笠原院長は山陽新聞社会事業団の松田正己理事長から表彰状と賞金100万円を受け取り「栄えある賞を励みに、さらに研さんを重ねていきたい」と述べた。

同賞は、山陽新聞社の元社長、故松岡良明氏の遺族から寄託された基金で創設。岡山県健康づくり財団が審査し、山陽新聞社会事業団が決定、がん征圧月間（9月）に合わせて表彰している。

（大橋洋平）

■ 本社HPに動画